

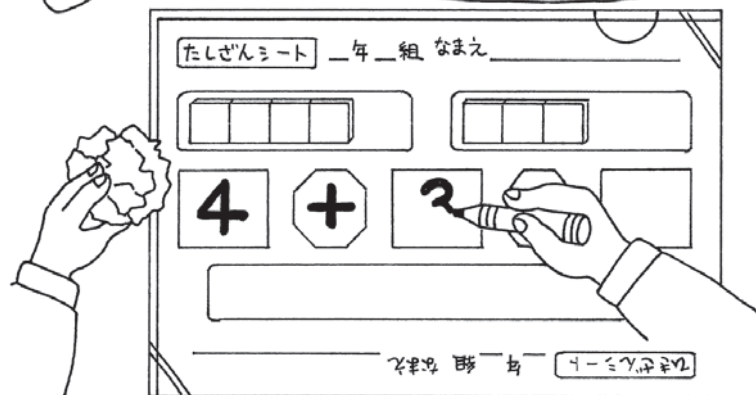


1～3年

クリアホルダーde計算



シートをクリアホルダーに入れて、水性マジック(ホワイトボード用がベスト)で、ホルダーの上から書きます。ティッシュで消せる「簡易ホワイトボード」になります。



計算の意味の理解には、操作活動が欠かせません。しかし、操作の方法をよく考えなければ、「ものを動かすこと」が苦手な子にはかえって負担になってしまいます。

〈クリアホルダーde計算〉は「水性マジックで書いてティッシュペーパーで消す簡易ホワイトボード」です。子どもに合わせてワークシートを作ること、たのしく操作できます。

① たし算

「りんごが3個あります。2個もらいました。全部で何個でしょう」タイルを用意して、式を書きましょう。



◆たし算の意味と式の表記は学習済みの段階を想定しています。

◆鉄の板(百均のスチールトレイなど)にクリアホルダーを貼ってからシートを差し込むと、磁石入りのブロックがくっついて、より使いやすくなります。

まず、タイルを使って計算しましょう。できたら、答えを書きましょう。



子ども：3+2で5になるね。

② ひき算

「みかんが6個あります。2個食べました。残りは何個でしょう」タイルを用意して、式を書きましょう。



◆ひき算の意味と式の表記は学習済みの段階を想定しています。

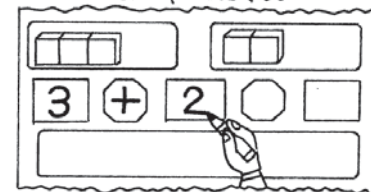
まず、タイルを使って計算しましょう。できたら、答えを書きましょう。



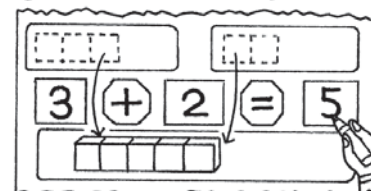
子ども：6-2で4だ～。

たし算

①タイルを置いて、式をたてる。

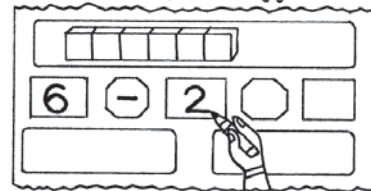


②タイルを動かして、答えを書く。

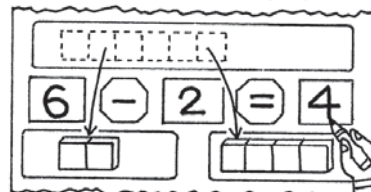


ひき算 (たし算シートをさかさまに置く。)

①タイルを置いて、式をたてる。



②タイルを動かして、答えを書く。



③ かけ算

「あめを2個ずつ、5人に配ります。全部で何個ありますか？」わかることをシートに書きましょう。



式を書いてから、タイルを使って計算しましょう。できたら答えも書きましょう。



◆タイルがなければ、体積の学習で使う1cm角ブロックなどが使えます。

④ わり算

「12個のあめを4人に同じずつわけます。1人分は何個になるでしょうか？」



◆かけ算と同様にわかることをシートに書いてから式を書き、タイル操作をしたあと、答えを書きます。

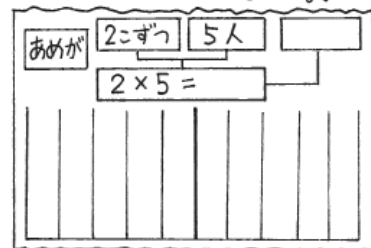
◆わり算の学習は〈1あたりわり算（等分除）〉を中心に進め、〈いくつつわり算（包含除）〉に進みます。詳しくは、『算数おもしろ授業1～3年』収録の「2つのわり算」をご覧ください。

【操作活動を「手軽に」】

ワークシートを使った操作活動は準備が面倒になりがちですが、ここで紹介した方法なら、何度も

かけ算

①わかることを書いて、式をたてる。



②タイルを使って求めた答えを書く。



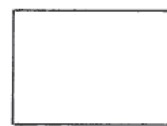
わり算

わかることを書いて式をたて、タイルを使って求めた答えを書く。



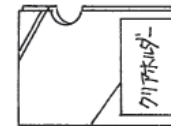
材料

コピー用紙
(B5～B4)



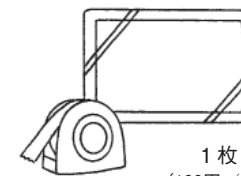
1枚
(1円/枚)

透明クリアホルダー
(コピー用紙にあったもの)



1枚
(10円/枚)

金属の板と両面テープ
(磁石を使う場合)

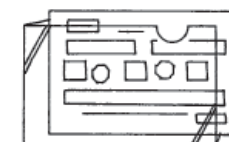


1枚
(100円/枚)

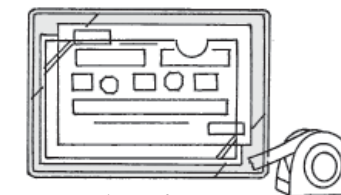
作り方



必要な型紙をダウンロードして、コピー用紙に印刷する。

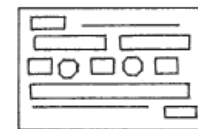


そのままクリアホルダーにはさむ。

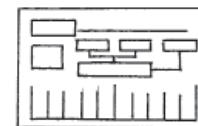


または、金属の板にクリアホルダーを両面テープで貼ってからはさむ。

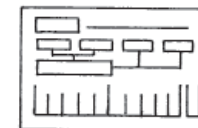
たし・ひき算用



かけ算用



わり算用



※まだまだ増えるかも…。